

ペガサス分団活動『梅雨に潤う盆栽村から土呂の見沼田んぼへ』

平成30年6月17日(日)
さいたま支部ペガサス分団

さいたま市北区土呂町には、江戸時代、土呂陣屋がありました。東側を広大な見沼、北と南を大宮台地に深く切れ込む浸食谷に囲まれた自然の地形を生かした防御に適した場所です。館の主は初鹿野昌久、元は武田信玄の家臣です。初鹿野昌久は甲斐の国(山梨県)上野原城主加藤虎景の六男、後に初鹿野家の養子になりました。信玄、勝頼に仕え、武田家滅亡後は徳川家康に仕えました。小牧・長久手の戦等緒戦で戦功を挙げた昌久は、家康が江戸に入城すると700石を賜り、ここ土呂に陣屋を構えました。その後も初鹿野氏は土呂村に住み続け、子孫は幕府の小納戸役、御書院番、江戸北町奉行などを務めました。現在は区画整理が進み、陣屋の跡は跡形もありません。わずかにその地形に面影を見るのみです。

また大宮公園駅北側には盆栽村があります。関東大震災で被災した東京の盆栽職人がまとまって移住してきた場所です。ここも雑木林が広がる台地で、植木の栽培に適した場所です。

その北側の土呂村は見沼田んぼの恵みを受けて繁栄した村です。村の鎮守の神明社にはクスノキやムクノキの大木が繁っています。境内にはかつて、土呂の大杉という巨木がありました。今は直径2mもあろうかと思われる切株の跡が残っています。

このような歴史深い土呂を見沼田んぼの生き物を観察しながら巡ってみたいと思います。

1 期日 平成30年6月17日(日)

☝ 雨天、雪、交通事情の混乱の時は中止します。

2 集合 大宮公園駅前 午前9時30分

3 解散 土呂駅 午前12時頃

4 自然観察ウォーキング 全行程約3.3km

大宮公園駅→盆栽四季の家→土呂陣屋跡→見晴公園→市民の森→神明社→土呂駅
天候などにより、当日になって行程を変えることもあります。

5 持ち物

雨具、セロハンテープ、持っていれば双眼鏡

6 その他

- ・ペガサス分団活動は参加人数を把握して資料を用意する関係上、事前の申し込みをお願いします。
- ・小学4年生以下の児童には、保護者の方の付き添いをお願いいたします
- ・途中で先に帰る場合は年齢にかかわらず保護者の方の付き添いをお願いいたします。
- ・団体行動です。1人で行動してはいけません。1人のときはリーダーと一緒に行動してもらいましょう。
- ・危険なもの、まわりに迷惑をかけやすい物(刃物、ライター、モデルガンなど)は、もってこない。
- ・天候、交通事情、団員の健康状態等で予定を変更することもあります。